

評価

自己評価A と外部評価 の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの 評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下達成

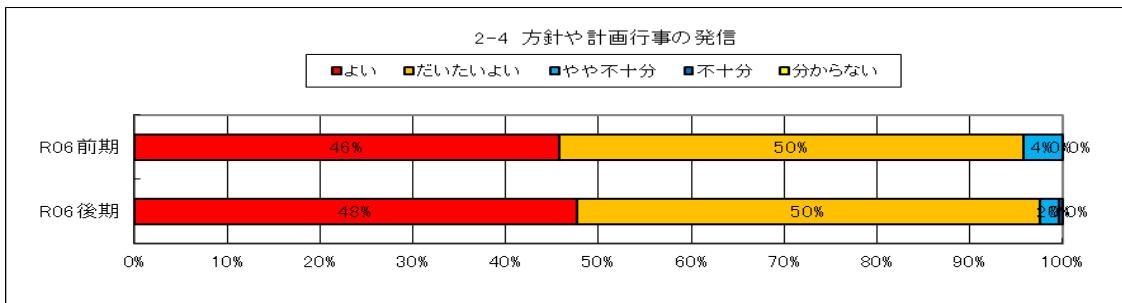
V 組織運営

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント		
特色ある学校づくり が計画的・組織的に 推進されている。	前期	良好	良好	・保護者からの100%支持は大変素晴らしい。①職員全員が学校運営の一員という自覚のもとで各事業が行われていると感じた。②職員数が多い学校なので、学級・学年を超えたコミュニケーションを大切にして児童や保護者対応を頑張っていただきたい。③児童たちも「学校を動かしている」という思いを持たせる取り組みがすばらしい。④児童たちが、様々な取り組みによって、よりよいプライドを育てていることだろう。	
	年度	良好	良好	①全教員が同じペクトルで児童と関わっているため、児童全体の成長が見られ大変素晴らしい。②教員全體が重要な内容を共通理解して進めるために協議や準備が大事であるが、時間がかかることがある。時間がないからどうやむやな形にせず、工夫をこらして解決していくといつてもいい。③総合学習の今年度の成果を次年度以降も確実に継続させていくほしい。④小学校における教科担任制は今後より具体化させていただろう。有浦スタイルに自信をもって進めていただきたい。	
【前期（→年度）】					
<p>①学年主任会⇒学年部会を定期的に行うことで、各PJ部（指導部）の案件等を共通理解しながら、実践できている。また、各PJ部からの伝達事項は職員会議後半で行っている学年部会で伝えることにしたため、職員一人一人の各PJ部への参加意識も高まり、全体として各事業が円滑に行われている。</p> <p>②若手の職員が多くなってきており、学年主任が先を見て計画的に学年部報を出しているため、学年全体で共通理解し同じ方向を見て進むことができている。また、学級王国をつくらず、学年担任という意識で、一人の児童に対して、学年全体で関わる形をもったり、保護者対応をしたりしている。</p> <p>③委員会活動の名称を子どもたちが考えたものに変更するなど特別活動に力を入れてきた。あいさつ運動をはじめ、諸活動で6年生が張り切って全校に働きかけ、児童会活動が活性化してきている。</p> <p>④6年生がSDGsについて学び、全校児童に昼の放送などで自分達ができることを実践するように呼びかけている。5年生は「駅one」に参加する予定である。地域コーディネーター 笹原さんのバックアップのおかげで、クラブや校外学習等をはじめたくさん地域の方に協力してもらひながらふるさとキャリア学習を展開することができている。今後も、子どもたちの主体的な発想を生かしながら進めていきたい。</p> <p>⑤開校記念集会では、「有浦っ子の未来を築け」のテーマのもと、全校児童で永井孝久元校長から「有浦ノベル」に込められた願いや思いを聞き、さらに4～6年生は山田和人元PTA会長から「人と上手に関わるコツ」についての講話を聞いた。母校への誇りを高める有意義な時間となった。</p> <p>〈後期の取組〉</p> <p>①1、2年生の生活科での地域を素材にした活動や、3年生以上のふるさとキャリア教育の実践を、地域や他校等にも発信していくことに力を入れたい。</p> <p>②「夢講座（5・6年）」の内容はキャリア教育の視点を取り入れ見直しを図り、より有意義なものにする。</p> <p>③来年度へ繋がる取組として、教師の専門性を生かすため、5・6年生の一部教科で交換授業による教科担任制の試行を実施する。</p>					
【年度（→次年度）】					
<p>①学年主任会・学年部会が機能し、学校全体・学年で足並みを揃えて活動・学習ができている。行事や集会での整列も整然と行われるようになり、参加態度も向上している。更に、充実・向上させていきたい。</p> <p>②職員会議等の時間が長くなり、勤務時間を過ぎてしまうことがあった。校時表の工夫を図り、開始時刻を早くし是正していきたい。</p> <p>③年度末に次年度の総合学習を立案することで、6年生から5年生に移した「夢講座」の運営や、4年生で行った地域の方々への年賀状・暑中見舞い書きなどスムーズに活動できた。来年度もこの方向で進めたい。</p> <p>④5・6年生の一部教科で交換授業により実施した教科担任制の試行は、実施することによって成果と課題が見えてきた。来年度の実施に向けてそれを整理し、有浦スタイルをつくりあげていきたい。</p>					

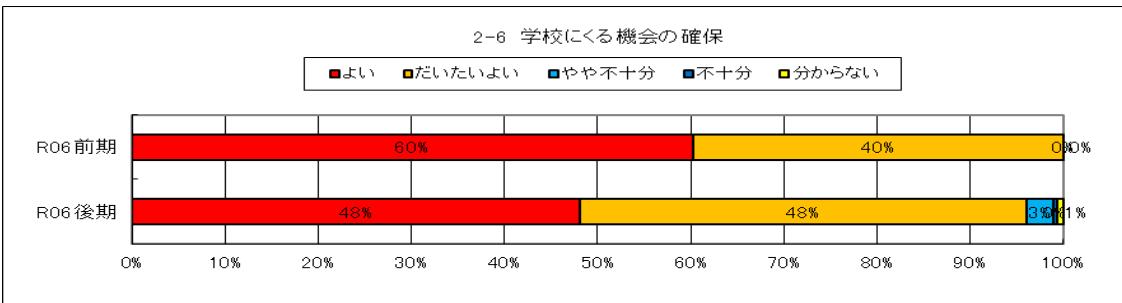
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
11 学校の明確な運営	(12)経営方針や重点施策の明示と遂行	教育目標具現のための適正な運営組織と分掌分担	4	4
		PDCAサイクルを踏まえた組織的活動と学年部・指導部の連携		
12 教育課程の編成と実施	(13)地域や学校の実態を考慮した教育活動の推進	充実した諸活動を保障する適切な教育計画の立案と実施	3	4
		夢をはぐくむふるさとキャリア教育の充実		

※学校教育アンケートから

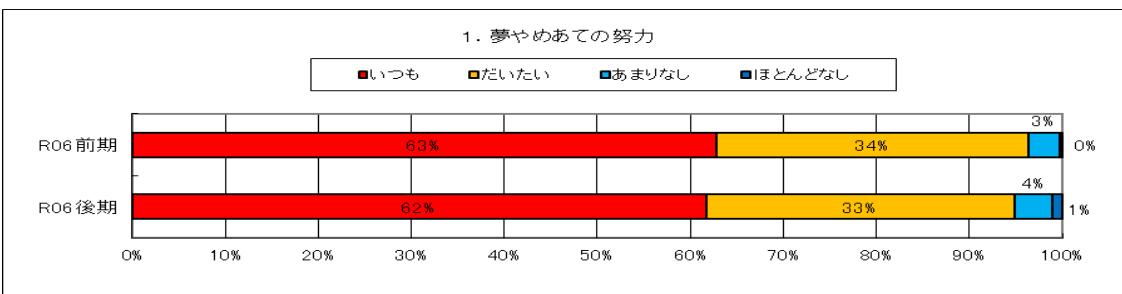
(保護者)



(保護者)



(児童)



☆ふるさとキャリア教育での取組 「アクション 前へ踏み出す力 授業と地域のつながり」



【地域人材の活用 幼保小連携避難訓練(水害対策)】



【音楽集会 ウィンターコンサート2024】



【駅oneでのよさこいソーラン演舞】

- 全校 幼保小連携避難訓練(水害対策)
音楽集会(ウィンターコンサート 2024)
- 3年生 社会科見学
 - ・消防署、イトクショッピングセンター
- 4年生 お世話になった方への年賀状・暑中見舞い
・民生委員、子ども110番の家の方、町内会長さん
- 5年生 駅oneへの参加
 - ・リコーダー演奏(威風堂々)とよさこいソーラン演舞
 - ・出店(クイズラリーコーナー バッジ等の景品)
 - ・夢講座の運営
- 6年生 SDGs持続可能な未来へ
・学習の成果や大館市をよくするためのアイデアを発表
(各施設の方々、地域の方、5年生に)